

1. 単元名 高跳び（走・跳の運動） 第3学年

2. 運動の特性

(1) 一般的特性

- ・高跳びは、短い助走から調子よく踏み切って、高く跳ぶ運動である。助走をリズムよく走り、力強く上方に踏み切ることや、振り上げ足や腕を使って体を上方に引き上げることが、記録の向上に繋がる運動である。また、足から安全に着地する運動である。
- ・より高くへと自分の記録に挑戦することが楽しい運動である。

(2) 児童から見た特性

運動の楽しみ方	学 び 方	技 能
<p>○より高く跳べたり、体が空中にふわっと浮いたりする感覚が得られると楽しいと感じる。</p> <p>○グループ内での励まし合いや声かけなどにより、運動のコツがわかり楽しさを味わうことができる。</p> <p>●個人での学習が中心となるため、集団としての意識が薄くなる。</p>	<p>○学習カードを提示することで、それをもとに動きがイメージしやすくなる。</p> <p>○良い動きを見て、真似をすることができる。</p> <p>●どんな動きが良いのか分からず、アドバイスができない。</p> <p>●高跳びの学習経験が少なく、運動感覚に対する発想が乏しい。</p>	<p>○リズムよくスキップができる。</p> <p>○膝の高さのものは跳び越えることができる。</p> <p>●高跳びの運動経験がなく、片足で踏み切り、片足で着地することができない児童が多くいる。</p> <p>●うまく跳ぶことができないと興味の持続が難しい運動である。</p>

3. 児童の実態

男子 22 名（情緒支援学級在籍 1 名）、女子 14 名、計 36 名の本学級の児童は、素直な児童が多く、言われたことに対して一生懸命に努力したり、良いことを率先して行ったりしようとする。また、男女とも仲が良く、明るく活動的である。休み時間には外でサッカーをしたり、鬼ごっこや遊具を使って遊んだりする児童や、図書室や教室で読書をしたりする児童もいたり、休み時間の過ごし方は様々である。多くの児童で誘い合って仲良く元気に遊んでいる。困

	男子	女子	合計
A	1	1	2
B	3	4	7
C	12	3	15
D	4	4	8
E	2	2	4

(人)
表：体力テストの総合評価（2014）

っている児童に対しても、自然と手を差しのべることができる子どもたちが多くいる。

運動に関しては、体力テストの結果から、Cを中心として比較的平均的な集団であることがわかる。運動能力は個人差が見られるが、体育の授業に対しては積極的に取り組む児童が多い。一方で、課題に対して挑戦することをあきらめてしまったり、ふざけてしまっていたりする児童も見られる。

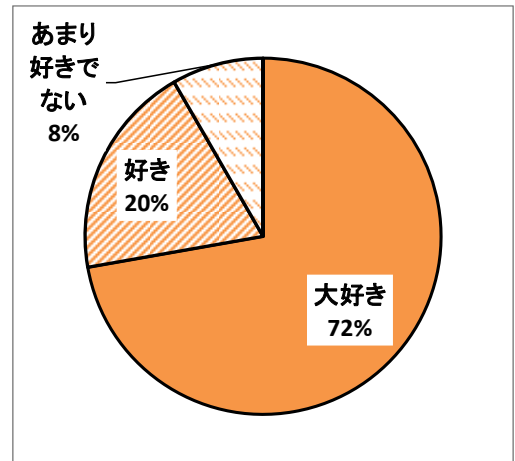
◎体育に関する事前のアンケートの結果

Q 体育は好きですか。

表1 体育の好き嫌い

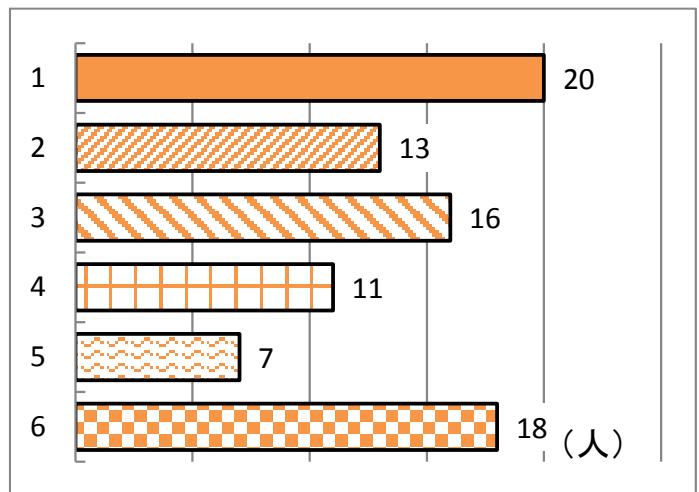
	男	女	計
大好き	17	9	26
好き	4	3	7
あまり好きでない	1	2	3
好きではない	0	0	0

(人)



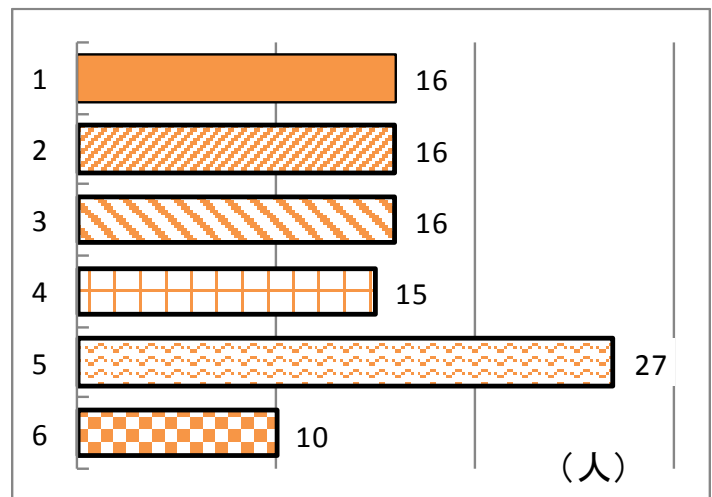
Q 好きな理由は何ですか。

- ①楽しいから
- ②みんなと一緒にできるから
- ③体を動かすことが好きだから
- ④得意だから
- ⑤ゲームなどで勝つとうれしいから
- ⑥できない技ができるようになるから



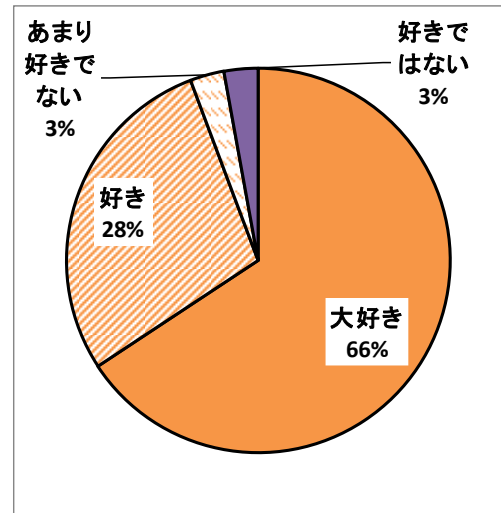
Q 体育の中で好きな学習は何ですか。

- ①体づくり運動
- ②器械運動
- ③走・跳の運動
- ④浮く・泳ぐ運動
- ⑤ゲーム (サッカー・ドッジボール
・プレルボール・バスケットボール)
- ⑥表現運動



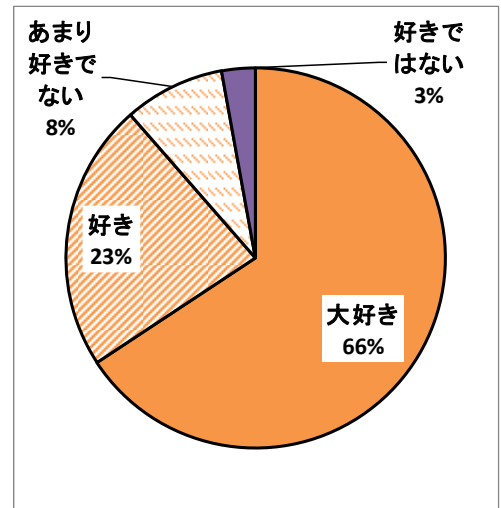
Q 走ることは好きですか。

	男	女	計
大好き	16	7	23
好き	6	4	10
あまり好きでない	0	1	1
好きではない	0	1	1



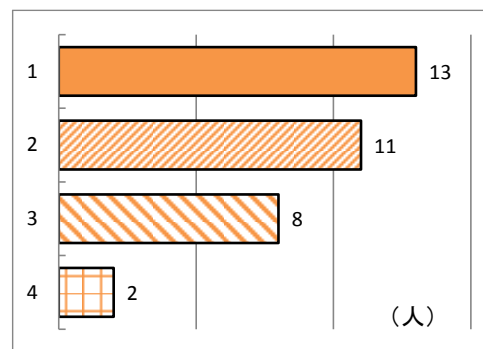
Q 跳ぶ（はねる）ことは好きですか。

	男	女	計
大好き	14	9	23
好き	4	4	8
あまり好きでない	2	1	3
好きではない	1	0	1



Q 高跳びについて考えたことを答えましょう。

- ①高くとびこえたら，楽しそう。
- ②高さに挑戦するのが，楽しそう。
- ③難しそう。
- ④高く跳び越えるのが，怖そう。



体育の授業に関しては、好意的に捉えている児童が 9 割を超えている。一方で、あまり好きではないと答えている児童が 3 名いる。好きではない理由として、男児 1 名は「ゲームなどで勝ち負けがあるから」「運動する時間が少ないから」と答えている。また、女児 2 名は、「得意でないから」「体を動かすことが好きでないから」と答えている。このような児童が授業の中で、少しでも成就感や体を動かすことの楽しさ・心地よさを味わうことができるように授業内容を工夫していく必要があると考える。

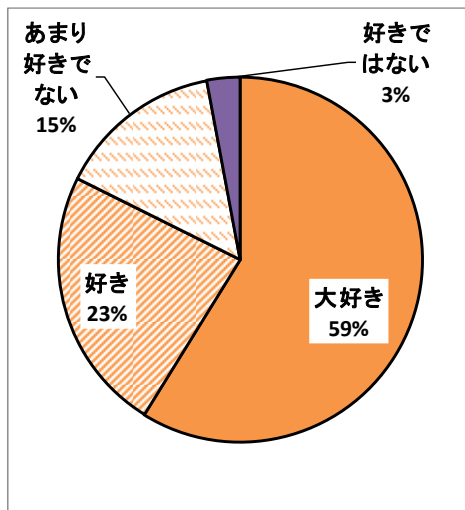
跳躍についての質問から、跳ぶことに関しても「大好き・好き」と答える児童が 89%で好意的に捉えている児童が約 9 割を占めている。また、「高くとびこえられたら，楽しそう。」「高さに挑戦するのが楽

しそう」と答える児童が多い結果から、高跳びに関しては興味を示していることがわかる。

一方で、難しさを感じていたり、恐怖心を抱いていたりする児童も見られる。そのような児童に対して十分な配慮をしながら工夫した授業を展開していく必要があると考えられる。

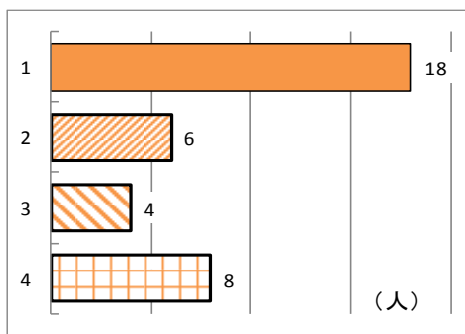
Q 友達と教え合っ (アドバイスし合っ) 学習していくことは好きですか。

	男	女	計
大好き	12	8	20
好き	5	3	8
あまり好きでない	2	3	5
好きではない	1	0	1



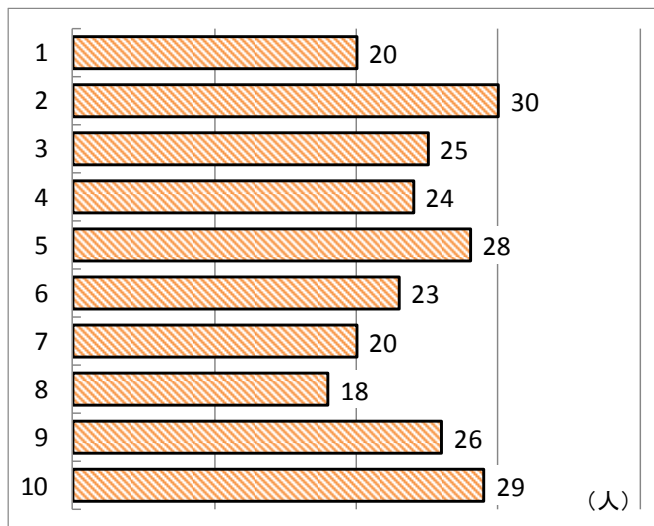
Q 好きな理由は何ですか。

- ① うまくなるコツがわかるから。
- ② 友達の意見，考えが聞けるから。
- ③ 励まし合えるから。
- ④ 一緒にやるのが楽しいから。



Q 体育の授業中，どんな時に「楽しい・おもしろい」と感じますか。

- ① ほめられたとき
- ② できなかったことができるようになったとき
- ③ いろいろな動きを経験できたとき
- ④ 競走しているとき
- ⑤ 勝ったとき
- ⑥ 技のコツをつかんだとき
- ⑦ 自分の記ろくをのぼすために工夫しているとき
- ⑧ 自分で記ろくに挑戦しているとき
- ⑨ たくさん運動したとき
- ⑩ 友だちといっしょに運動しているとき



友達と教え合うことについての質問項目では、約 8 割の児童が友達と教え合って学習を進めていくことは「大好き」「好き」と答えている。その一方で、「あまり好きではない」「好きではない」と答えている児童が 5 名いる。理由としては、3 名の児童が「何をアドバイスすればいいのかわからないから」と答え、「できないことを言われるのが嫌だから」と「話し合うより運動したいから」と答える児童が 1 名ずついた。特に何をアドバイスしたらよいかわからない児童に対して、授業においては友達の動きを見る視点を明らかにしたり、具体的にどのような言葉でアドバイスすればよいのか例示を示したりして工夫して授業を展開していきたいと考えている。

また、体育授業の楽しさやおもしろさについてのアンケートの結果から、子どもたちが感じる体育授業での「楽しさ・おもしろさ」は「できなかったことができるようになること」「友達と一緒に運動しているとき」「勝ったとき」「たくさん運動したとき」であった。これらの結果をもとに、子どもたちが上記の経験がたくさんできるように課題のスマールステップ化、友達との関わり、勝敗、運動量を大切に授業を展開していく必要があると考えられる。

4. 授業の構想と指導意図

体育科の目標は、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」である。具体的に「運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進」、「体力の向上」の 3 つが目標として示され、体育科において重要なねらいとなっている。この中の「体力の向上」とは、各種の運動を適切に行い、活力ある生活を支えたくましく生きるための体力の向上を図ることとされている。そのため、児童の発達の段階を踏まえ、適切に指導をする必要がある。

また、現在の子どもたちは、社会の情報化や凶悪な犯罪等の様々な理由から、昔と比べると体を動かして外で遊ぶ機会が減ってきている。このように外遊びが減少したことにより、子どもの運動量は極端に少なくなり、様々な基本的な動作の獲得も困難な状況になっている。そのような子どもたちにとって、今日の体育の授業は大変貴重な時間であり、短い時間の中で多くの運動経験ができ、体を動かす楽しさを味わうことができるように工夫していく必要があると考える。

以上のことを踏まえ、走・跳の運動（高跳び）では、調子よく走ったり、跳んだりすることの楽しさや心地よさを十分に経験することを大切にしながら、競走（争）の仕方や意欲的に取り組むことができるような楽しい活動を取り入れ、工夫して授業を展開していくことが求められる。

ア 運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身につけることができる授業の展開

高さのある物を跳び越えるという運動は児童の運動経験がほとんどなく、初めて経験する運動である。そこで、まず跳ねること（体が空中に浮く感覚）の楽しさや心地よさを味わわせるために、低学年の跳の運動遊びを取り入れ、遊びの感覚から徐々に跳の運動へと移行していく。課題に対して恐怖心を取り除くために、子どもたちにとって易しい動きを取り入れ、どの児童にとっても楽しみながら課題に取り組めるよう、様々な場を設定する必要があると考える。児童の「もっとやってみたい」「楽しい」という気持ちを大切に、授業を展開していくことが重要であると考えられる。

また、高跳びに対する気持ちは、「跳べた」「跳べなかった」で明確に別れてしまいがちになる。跳べた児童は楽しく、跳べなかった児童は意欲が低下してしまうことが考えられる。個々の能力に応じ

て高跳びの特性に触れることができ、すべての児童が楽しさを実感できるよう、指導展開・場を工夫していくことを心がけて授業づくりを行っていききたい。そして、高跳びの運動特性である、ふわっと体が空中に浮く感覚や跳べたときの心地よさを多くの児童に感じさせたいと考える。そこで、単元を通じて様々な場面で楽しみながら跳躍感覚が身につくように次のような場の工夫をしていく。

○準備運動（単元を通して毎時間設定）

リズム太鼓に合わせて、いろいろな動きを取り入れる。心と体をほぐすことができるような楽しい動きを行う。

例) 歩く、走る、スキップ、2スキップ、ギャロップ、ケンケンパーetc

運動する際に、高跳びの運動特性に合わせて体の使い方や声かけを行うようにする。

○ジャンピングタイム（単元を通して毎時間設定）

主に「跳の運動遊び」の内容を取り入れ、いろいろな跳び方を体験し、心地よく跳ぶための動きづくりを行ったり、跳び方を身につけたりする時間として設定する。幅や高さを変えた様々な跳ぶ場で、友達と競走して楽しんだり、調子よく跳んだりして心地よさを味わい、楽しみながらいろいろな跳び方を身につけることを目的としている。

- ジグザグゴム跳び・・・片足踏み切り、片足着地の感覚
- ゴム跳び・・・リズムよく跳躍する感覚
- ケンパー跳び・・・リズムよく跳躍する感覚
- 島跳び・・・リズムよく跳躍する感覚
- 川跳び・・・高く跳んだり、長く跳ぶ感覚
- 跳び上がり・跳び下り（高いところからの）・・・空中感覚

これらの運動は子どもたちにとっては優しい運動であるので、跳ぶことが苦手と捉えている児童もできる喜びを味わうことができると考える。また、単元後半では「じゃんけん双六」を取り入れる。チームで取り組むことによって競い合いの場面が生まれ、活動に対しても意欲的に取り組むことができると考える。

高跳びに関しては、高学年で「走り高跳び」の指導として主にされているが、低学年で行ってきた跳の運動遊び（ケンパーやゴムとびなど）を、中学年でも体系的に指導していくことで、高学年の走り幅跳びや走り高跳び、さらには中学校の陸上競技へとつなげていくことができる。高跳びの動きを細分化していくと、「助走」「踏み切り」「空中」「着地」と大きく4つの局面に分けることができる。高跳びの特性として、助走スピードを上昇スピードに効率よく変えてバーを越える。助走スピードが速すぎると上方に跳び出すことができずに、マットに流れた低い跳躍になってしまう。より高く跳ぶためには、前方へ進んでいる力を瞬時に上方へと変換できるようなリズムカルな助走から、調子よく踏み切ることが重要なポイントとなる。このような一連の流れが走り高跳びとされているが小学校3年生の段階では、特に「上方へ跳ねる」ことに着目して授業を展開していきたいと考える。

より大きな跳躍力を得るためには、地面からの反発力をもらうことが有効であるとされている。本単元において、このことを基に力を使うことなくどの児童にもふわっとした感覚が体験でき、高跳びの楽しさを味わうことができるように仕組んでいきたいと考える。そのために、踏み切りではより地面からの反発をもらうことができるような動きを取り入れていききたい。高跳びにおいて踏み切り直前

の 3 歩は調子よく踏み切るための準備局面として大変重要である。このことから、本単元の高跳びの授業では、「調子よく踏み切る」ことに焦点をあて、授業を展開していきたい。また、「調子よく踏み切る」ことを押さえるために、単元全体を通して「調子よく」の解釈を「3 歩のリズム」として授業を展開していく。

3 歩の助走は、幅跳びの助走にみられる、階段を駆け上がるような「タ、タ、タン」という助走ではなく、高跳びにおいてはより反発を利用して跳び越すことに着目した「タン、タ、タン」という 1 歩目にリズムを入れる助走の習得を目指していきたい。このことは 1 度アクセント動作を入れることによって、高く跳ぶために必要な踏み切り準備動作が取り入れやすくなるためである。踏み切り直前の 1 歩の歩幅を狭くすることにより、より体の軸が地面に対して垂直な状態で踏み切ることができ、垂直方向の力を得やすくなる。このリズムで跳ぶことで自然と高さのある跳躍ができるのではないかと考え、本授業に取り入れていく。

これらのことを、授業中の「高跳びタイム」の時間を中心にして身につけさせていく。ジャンピングタイムの経験を活かして単元後半では実際に 3 歩のリズムでの高跳びに取り組み、高跳びの基本的な動きを身につけていく。小学校 3 年生の段階では、踏み切り足を決め、3 歩のリズムで調子よく踏み切ることを目標として取り組む。単元最後の 4 時間目には、色々な動物の高さに挑戦するという時間を設ける。また、場の工夫としては、ケンステップや目印を助走路に置き、「タン・タ・タン」の 3 歩のリズムを意識できるようにする。また、高跳びタイムで「タン・タ・タン」のリズムを何度も声に出して言わせたり、言いながら跳ばせたりすることで、助走のリズムを体感させていきたい。教具としては、高跳びの「バー」の代わりにゴムひもを使用していく。跳ぶことに対する恐怖感が少しでも薄れることができ高跳びに対する意欲が高まることを大切に授業を展開していきたい。

イ 言語活動を意識して、思考を高めさらに技能を高める授業

技能を習得し、楽しさを味わうためには言語活動を充実させることも有効であると考え。本単元の高跳びの授業では、運動の技能の効果的な習得や友達との関わりを大切にするために、友達同士の励まし合いや教え合い、学習カードの使用、学習資料の掲示を中心にして言語活動を充実させていきたい。

何をアドバイスすればよいかわからないというアンケートの結果があったように、技能のポイントやアドバイスし合えるような内容を明記した学習カードを用意したり、学習資料を掲示していくことが必要であると考え。また、児童が、自分の感覚や動きに対するイメージを言語化し、動きのコツやポイントを友達同士で伝え合うことができるよう、オノマトペ（擬音語・擬態語）を使って動きを理解させていきたい。お互いの跳び方のよさを見合ったり、認め合ったり、真似したり、教え合ったりする中で、自分ではどのように跳んでいるかわからない動きを友達目で確かめられるように場を多く設定していき、その中で児童間の深い関わり合いができるよう支援していきたい。友達同士で見合い、ポイントとなることや励ましの言葉などを表現することでさらに運動に対しての意欲も高まり、互いに動きが高まっていくと考える。

このように学習カードや学習資料を活用することで、技術のポイントを理解したり、相手に理解しやすき言葉を用いたりすることで関わり合いが増え、さらには技能の高まりに繋がっていくのではないかと考える。

ウ 目標とする動きを身につけるために指導の工夫をした授業

特に体の動きを伴う体育科の授業においては、言葉だけでは動きを説明することには限界があり、運動自体を個々の目で見て理解することがとても重要である。45分という短い授業時間の中で、多くの児童に成就感を味わわせ、できる喜びを体験させるためにも、良い動きを撮りその動きを再度見ることは大変有効であると考えます。本単元では、高跳びタイムでiPadを使用し、良い動きの児童を教師が撮り、それをクラス全体で共有化していく。ほとんどの児童が高跳びを行うのは初めてであるので動きを見ることで意識をすることが明確になったり、アドバイスをすることで視点が明らかになったりする。そのため、関わりも増えていくのではないかと考える。実際の動きを見せ集団で共有化することで、課題となる点がより具体的になり適切な言葉がけやグループ内での関わり合いも増えていき、目標とする動きに近づくことができ技能の習得に繋がると考える。

高跳びの運動の系統について

学年	1・2年	3・4年	5・6年
運動の領域	走・跳の運動遊び	走・跳の運動（高跳び）	陸上運動（走り高跳び）
主な学習内容	<p>○助走をつけて片足で踏み切り、前方や上方に跳んだり、片足や両足で連続して跳んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助走を付けて片足で踏み切って上方に跳ぶこと。 ・片足や両足で連続して上方に跳ぶこと。 	<p>○短い助走から調子よく踏み切って高く跳ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～5歩程度の短い助走から踏み切り足を決めて上方に踏み切り、高く跳ぶこと。 ・膝を柔らかく曲げて、足から着地すること。 	<p>○助走が5～7歩程度の走り高跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルな助走をすること。 ・上体を起こして踏み切ること。 ・はさみ跳びで、足から着地すること。

【高跳びの技能のポイント】

《助走・踏み切り》（○印は特に本単元で中心として扱うもの）

○3歩のリズムは「タン・タ・タン」で助走する。

- ・振り上げ脚と腕の力強い引き上げを利用して足の裏全体で力強く踏み切る。
- ・体を起こして、目線はやや上方（反対側の支柱の一番上）にする。
- ・振り上げ脚のひざを高く引き上げる。

《空間姿勢・着地》

- ・両脚を大きくはさむようにしてバーを越える。
- ・越すときにゴムを見る
- ・抜き脚を胸に引き付けるようにする。
- ・膝や足首をやわらかくして着地する。

動きのポイント（ポイントとなる動きの声掛け）

●タン・タ・タン	●足うら全体で	●腕でグッと体を持ち上げて
●リズムよく	●バーンと	

5 単元の目標

- (1) 短い助走から、調子よく踏み切って高く跳ぶことができるようにする。【技能】
- (2) 高跳びに進んで取り組み、約束を守り励まし合って運動したり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【態度】
- (3) 高跳びのポイントを知ったり、友達の良い動きを見つけたりして、自分の動きに活かすことができるようにする。【思考・判断】

6 単元の評価規準

	運動の関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・競走したり、目標記録に挑戦したりする楽しさや喜びに触れることができるよう、高跳びに進んで取り組もうとしている。 ・約束を守り、友達と励まし合って練習や競争をしようとしている。 ・用具の準備や片づけなど分担された役割を果たそうとしている。 ・運動する場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高跳びのよい動きを知るとともに、友達のよい動きを見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短い助走から、調子よく踏み切って高く跳ぶことができる
学習活動に則した評価規準	<ol style="list-style-type: none"> ①高跳びを楽しむための活動に進んで取り組もうとしている。 ②約束を守り、友達と助け合ったり励まし合って練習や競争をしている。 ③用具の準備や片づけなどの分担された役割を果たそうとしている。 ④順番やきまりを守って、友達と仲良く運動しようとする。 	<ol style="list-style-type: none"> ①高跳びのポイントを知るとともに、自分の課題を見つけている。 ②友達の良い動きを見つけ、自分の動きに活かしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①短い助走から片足で踏み切り、足から着地することができる。 ②助走のリズムを生かし、力強く踏み切って跳ぶことができる。

7 単元の指導計画

過程	学習活動のねらい・主な学習活動	態度	思考判断	技能	支援・教師の関わり
第一時	<p>1 用具や場の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具の準備の仕方や安全な行い方を確認する。 <p>2 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいと進め方，約束ごとなどを知る。 ・学習カードの使い方を知る。 <p>3 健康観察</p> <p>4 めあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>いろいろな跳ぶ動きに挑戦しよう。</p> </div> <p>5 準備運動（リズム太鼓）</p> <p>走る・スキップ・2スキップ・ギャロップ・ケンケン・ケンパー…</p> <p>6 ジャンピングタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ジグザグゴム跳び ●ゴム跳び ●ケンパー跳び ●島跳び ●川跳び ●跳び上がり・跳び下り (高いところからの) <p>それぞれの種目を5分ずつ練習し，すべての課題を経験し，跳の基礎的な感覚を養う。</p> <p>7 学習の振り返り</p> <p>8 後片付け</p>	<p>②観察</p> <p>③観察</p>			<p>※安全に運動ができるように場や用具の使い方などを指導する。</p> <p>※学習のねらいと進め方を説明し，見通しを持って学習に取り組めるようにする。</p> <p>※リズムを変えたり強弱を付けながら運動に取り組むよう声をかける。</p> <p>※どの児童にもできるように簡単な課題を設定し何度でも挑戦させる。</p> <p>※踏み切り，着地はどちらの足でも経験させる。</p> <p>※高跳びに必要な「踏み切り」「腕の使い方」「着地」に触れ，一つ一つの動きを意識して行わせる。</p> <p>※役割ごとに協力して後片付けをするように声をかける。</p>
第二時	<p>1 用具や場の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具の準備の仕方や安全な行い方を確認する。 				

	<p>2 健康観察 3 準備運動 4 めあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>いろいろな跳ぶ動きに挑戦しよう。 高跳びを知ろう。</p> </div> <p>5 ジャンピングタイム 各班ごとに前回の内容にチャレンジする。 「じゃんけん双六」 ・練習した課題を双六形式で設定し、グループ対抗で行う。</p> <p>6 高跳びタイム ○高跳びとはどのような運動か知る。 ・片足で踏み切ること ・足から着地すること ○歩いてまたぎこす</p> <p>7 学習の振り返り 8 後片づけ</p>	①観察			<p>※動きが雑にならないように声かけをする。</p> <p>※ハードルやゴムを用いてまたぎ越す感覚を養う。</p> <p>※斜めから跳ぶ方が良いことに気づかせる。</p> <p>※絵やVTRを活用し、助走や踏み切りのポイントを確認する。</p> <p>※役割ごとに協力して後片付けをするように声をかける。</p>
第三時 本時	<p>1 用具や場の準備 2 健康観察 3 準備運動 4 めあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>踏み切り足を決めて、「タン・タ・タン」のリズムで踏み切ろう。</p> </div> <p>5 ジャンピングタイム 「じゃんけん双六」（前時と同様の課題でグループ対抗で行う。）</p> <p>6 高跳びタイム ○前時の復習 ○「タン・タ・タン」のリズムを体感する ○踏み切り足を決める ○グループごとに練習</p>		②観察 カード	①観察	<p>※動きのポイントに着目させる。</p> <p>※「タン・タ・タン」のリズムを声に出すように促す。</p> <p>※動きのポイントに視点を置き動きが出来ているかどうかを友達に見てもらおう。</p>

	<p>7 振り返り ・学習カードの記入・形成的授業評価の記入</p> <p>8 後片付け</p>				<p>※みんなで声を出してリズムがとれるように指示をする。</p> <p>※役割ごとに協力して後片付けをするように声をかける。</p>
第 四 時	<p>1 用具や場の準備</p> <p>2 健康観察</p> <p>3 準備運動</p> <p>4 めあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>色々な高さに挑戦しよう。</p> </div> <p>5 ジャンピングタイム 「じゃんけん双六」</p> <p>6 高跳びタイム ・役割分担を確認し、各班ごと色々な高さに挑戦する。 ○バッタジャンプ ○カエルジャンプ ○ウサギジャンプ</p> <p>7 振り返り ・学習カードの記入</p> <p>8 後片付け</p>	④観察 カード		②観察	<p>※一人 3 回ずつその高さに挑戦する。</p> <p>※班ごと色々な高さに何度も挑戦する。</p> <p>※役割ごとに協力して後片付けをするように声をかける。</p>

8 本時の学習（全4時間の第3時間）

(1) 日時 平成26年 8月 29日（金）

(2) 場所 塩山南小学校体育館

(3) 本時のねらい

短い助走から片足で踏み切り、片足から着地することができる。【技能】

友達の良い動きを見つけ、自分の動きに活かしている。【思考・判断】

(4) 展開

	学習内容と活動	教師の関わりと評価
はじめ (10分)	<p>1 用具や場の準備 ・用具の準備の仕方や安全な行い方を確認する。</p> <p>2 健康観察</p> <p>3 準備運動（リズム太鼓） 走る・スキップ・2 スキップ・ギャロップ・ケンケン・ケンパー…</p> <p>4 めあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>踏み切り足を決めて、「タン・タ・タン」のリズムで踏み切ろう</p> </div>	<p>※本時の展開の流れを伝え、見通しを持って学習に参加できるようにする。</p> <p>※ ※高跳びへつなげるための具体的な声掛けをしながら楽しく活動させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕を大きく振る ・膝を高く上げる ・太鼓のリズムに合わせる <p>※リズムを変えたり強弱を付けながら運動に取り組むよう声をかける。</p>
なか 1 (10分)	<p>5 ジャンピングタイム じゃんけん双六（別紙）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ケンパー跳び ●島跳び ●川跳び ●跳び上がり・跳び下り（高いところからの） <p>3分を2回行う。</p> <p>班ごとに協力して片付けをし、高跳びタイムの準備をする。</p>	<p>※ジャンピングタイムの時にも動きのポイントを意識してできるよう声掛けをする。</p> <p>※動きが雑にならないように丁寧に組みませる。</p> <p>※役割ごとに協力して後片付けをするように声をかける。</p>

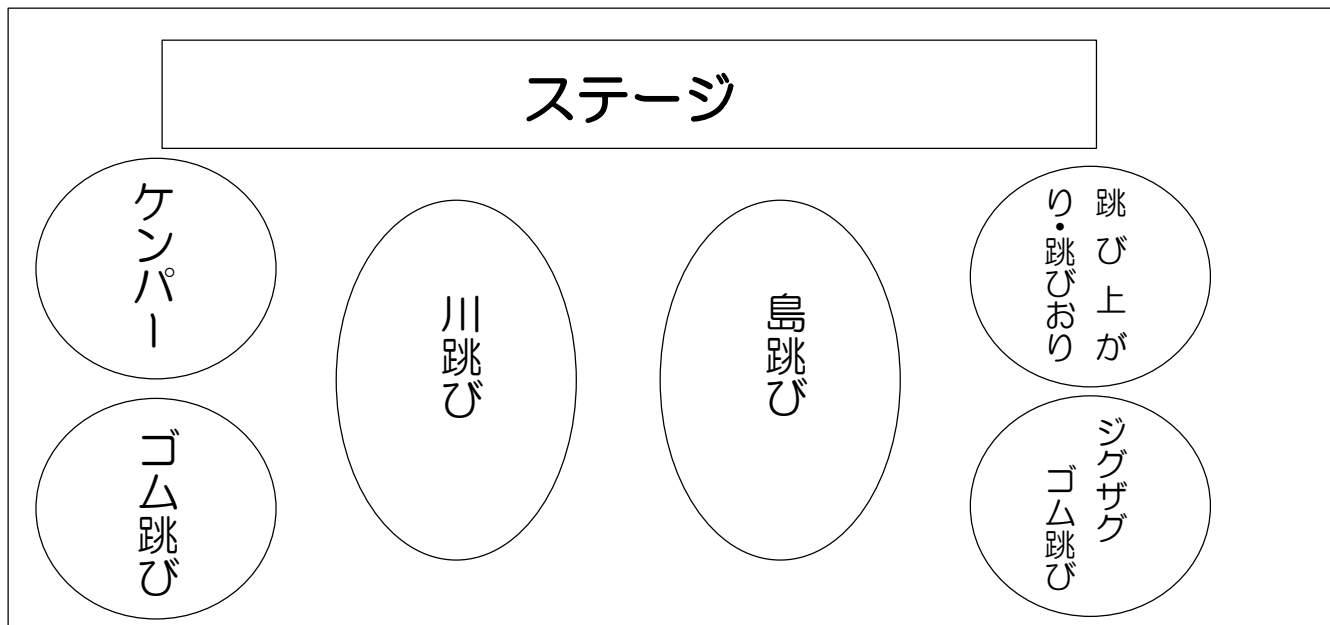
<p>なか 2 (2 1 分)</p>	<p>6 高跳びタイム(6人1グループでの活動) (場の設定は別紙)</p> <p>○前時の復習をする。 →より高く跳ぶためにはななめから 踏み切るとスムーズな動きにつな がること →片足で跳ぶこと 足から着地すること</p> <p>○教師の模範を見ながら、「タン・タ・ タン」の音を聞く。</p> <p>○踏み切り足を決める。 学習カードに色を塗る。</p> <p>○グループごとに練習する。</p> <p>・良い動きができていない児童にお手本と なってやってもらう。</p>	<p>※友達の動きの良いところやポイントとなるところ をアドバイスする。</p> <p>※「タン・タ・タン」のリズムを声に出すように促す。</p> <p>※みんなで声を出してリズムがとれるように指示を する。</p> <p>※動きのポイントを視点におき、動きができてい るかどうかを友達に見てもらいながら学習を進める。</p> <p>※動きの良かった児童を取り上げ、全体でポイント を共有する。</p> <p>☒友達の良い動きを見つけ、自分の動きに活かしてい る。(観察・カード)</p> <p>☒短い助走から片足で踏み切り、片足から着地するこ とができる。(観察)</p>
<p>お わ り (4 分)</p>	<p>7 後片付け</p> <p>8 次時の予告</p>	<p>※役割ごとに協力して後片付けをするように声をか ける。</p> <p>※次の時間は、色々な高さに挑戦することを伝える。</p> <p>※けがをしていないか、健康状態を確認する。</p>
<p>事 後</p>	<p>学習の振り返り ・学習カード・形成的授業評価の記入</p>	<p>※授業評価にはすべてに○をつけるよう説明する。</p>

9 参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 東洋館出版社
- ・新版 体育科教育学入門 高橋健夫 岡出美則 友添秀則 岩田靖編著 大修館書店
- ・体育授業を観察評価する 授業改善のためのオーセンティック・アセスメント 高橋健夫 編著 明和出版
- ・小学校体育まるわかりハンドブック 文部科学省 中学年
- ・小学校体育科教師用指導書2・3年
- ・陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 (大修館書店)

《場の設定》

ジャンピングタイム

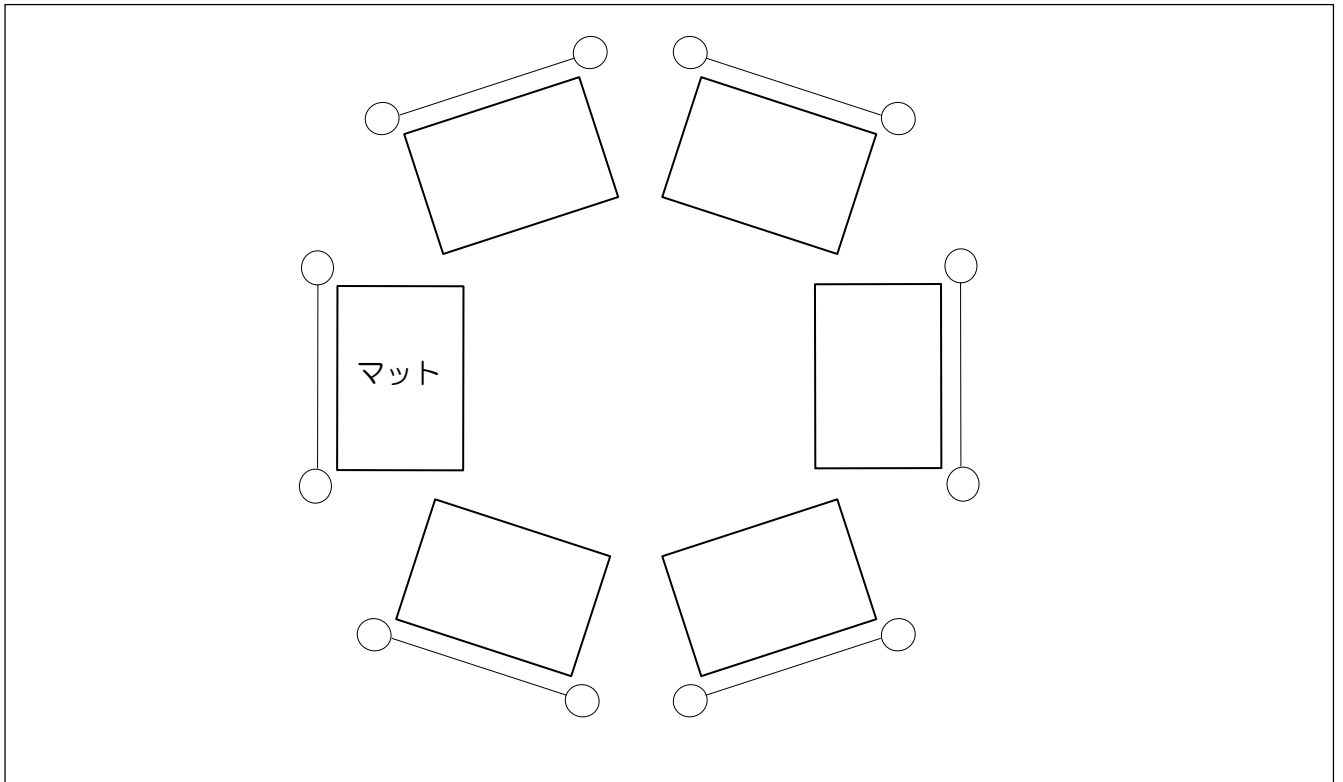


ジャンピングタイム 《じゃんけん双六》 チーム対抗戦

ルール

- ・4つの場の課題をクリアし、1周できたら1点
- ・2人のペアが攻撃側と守備側に分かれる。攻撃側は4つの課題に挑戦する。守備側は四隅のコーンに立ち、攻撃側とじゃんけんをする。
- ・守備側は、自分のペアが何周できたかカウントする。攻撃側は1周できたら中央の得点板にポイントを入れて2周目にチャレンジする。
- ・攻撃側がじゃんけんに勝ったらそのまま進み課題に挑戦する。
- ・攻撃側がじゃんけんに負けたら、中央まで行きカエルの足打ちを3回行う。課題が終わったら戻って次の課題にチャレンジする。
- ・1ゲーム3分程度。

高跳びタイム



○形成的授業評価（じゅぎょうふりかえりカード）の活用

学習の成果を把握する手掛かりとして高橋ら（1994）によって標準化された「形成的授業評価」を用い、授業を受けた子ども全員が授業全体を評価する（表）。毎時間の授業の振り返りの時間にすべての子ども（見学者は除く）に形成的授業評価票を配布し、評価を実施する。形成的授業評価は「成果」「意欲・関心」「学び方」「協力」の4次元9項目で構成されている（表1参照）。「はい」、「いいえ」、「どちらでもない」の3選択で行い、「はい」に3点、「どちらでもない」に2点、「いいえ」に1点を与えて、平均点を算出する。一単位時間のそれぞれに子どもが体育授業でどのような観点から捉え、評価するのかを子どもの授業評価の構造を通して検証する。

表 形成的授業評価票（高橋，1994）

今日の体育の授業について質問します。下の1～9について、あなたはどのように思いましたか。 あてはまるものに○をつけてください。	
1. 深く心に残ることや感動することがありましたか。[感動の体験]	はい・どちらでもない・いいえ
2. 今までできなかったこと(運動や作戦)ができるようになりましたか。 [技能の伸び]	はい・どちらでもない・いいえ
3. 「あっわかった!」とか「あっそうか!」と思ったことがありましたか。 [新しい発見]	はい・どちらでもない・いいえ
4. せいっぱい全力をつくして運動できましたか。[精一杯の運動]	はい・どちらでもない・いいえ
5. たのしかったですか。[楽しさの体験]	はい・どちらでもない・いいえ
6. 自分から進んで学習できましたか。[自主的学習]	はい・どちらでもない・いいえ
7. 自分のめあてに向かって何回も練習できましたか。[めあてをもった学習]	はい・どちらでもない・いいえ
8. 友達と協力して仲よく学習できましたか。[なかよく学習]	はい・どちらでもない・いいえ
9. 友達とお互いに教えたり助けたりしましたか。[協力的学習]	はい・どちらでもない・いいえ

じゅぎょうふいかえりカード

年 組 番 男・女 なまえ()

☆ 今日きょうの体育授業たいいくじゅぎょうについて質問しつもんします。下したの1～9について、あなたはどう思おもいましたか。

あてはまるものに○をつけてください

- 1 深くふか心こころに残のこることや、感動かんどうすることがありましたか。 【 はい ・ どちらでもない ・ いいえ 】
- 2 今いままでにできなかつた運動うんどうができるようになりましたか。 【 はい ・ どちらでもない ・ いいえ 】
- 3 「あっ、わかつた！」とか「あっ、そうか」と思おもったことがありましたか。 【 はい ・ どちらでもない ・ いいえ 】
- 4 せいっぱい、全力ぜんりょくをつくして運動うんどうすることができましたか。 【 はい ・ どちらでもない ・ いいえ 】
- 5 たのしかったですか。 【 はい ・ どちらでもない ・ いいえ 】
- 6 自分じぶんから進すすんで学習がくしゅうすることができましたか。 【 はい ・ どちらでもない ・ いいえ 】
- 7 自分じぶんのめあてにむかつて何回なんかいも練習れんしゅうできましたか。 【 はい ・ どちらでもない ・ いいえ 】
- 8 友達ともだちと協力きょうりょくして、なかよく学習がくしゅうできましたか。 【 はい ・ どちらでもない ・ いいえ 】
- 9 友達ともだちとお互たがいに教おしえたり、助たすけたりしましたか。 【 はい ・ どちらでもない ・ いいえ 】